

科目名	臨床薬理学			授業の種類	講義演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間 1 単位	必修・選択	必修	担当学年 時期	2年 通年
【授業の目的・ねらい】 薬が身近なものになっている現在、法律による医薬品の分類を学び、薬の薬理作用やその体内動態を学ぶ上で薬理学で用いられる用語の意味や概念を理解する。							
【実務者経験】							
【授業全体の内容の概要】 薬理学用語や内容の背景について理解できるよう解説していく。より理解を深めるには予習によるキーワード箇所をあらかじめチェックし、不明な用語は調べておく必要がある。授業では、教員による解説事項を予習事項と照らし合わせながら確認と理解を深めていく。復習ではキーワードや学習事項の要点を簡潔にノートにまとめることで、全体の授業が成立する。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 薬理学は薬物と生体との関わりについて調べる分野であり、薬物が病気の診断、治療、予防、など医療で用いられているのが薬であることが理解できる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	医薬品、医療機器等の品質、有効性、安全性確保に関する法律						
2	薬の投与と薬理作用、薬物動態学						
3	薬効に影響を及ぼす因子、新薬開発						
4	抗感染症薬(1)						
5	抗感染症薬(2)						
6	中枢神経系作動薬(1)						
7	中枢神経系作動薬(2)						
8	末梢神経系作用薬(1)						
9	末梢神経系作用薬(2)						
10	循環器系作用薬						
11	腎臓作用薬、血液作用薬						
12	抗炎症薬						
13	呼吸器系作用薬						
14	ホルモン系作用薬						
15	骨粗鬆症治療薬、消化器系作用薬						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学テキスト くすりと薬理、海本浩一・岩谷博次、東京電機大学出版局							
【準備学習・時間外学習】 予習によるキーワード箇所をあらかじめチェックし、不明な用語は調べておく必要がある。復習ではキーワードや学習事項の要点を簡潔にノートにまとめることで、全体の授業が成立する。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 試験は定期試験のみ実施とし 60点以上の場合に科目を認定する							